

平成二十七年 度

附属中学校入学試験問題

国 語

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで、問題を開かないこと。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、出身小学校名、氏名、受験番号を解答用紙に記入すること。
- 四、試験終了の合図があつたら鉛筆をおき、解答用紙の回収がすむまで席を立たないこと。

〔一〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「『談志が死んだ』おれが死んだら新聞の見出しはこれだな。」

そう言っていた落語家立川談志（たてかわだんし）が死んだのは平成二十三年十一月二十一日、満七十五才だった。その時の新聞の見出しが彼の言葉通りだったかは知らないが、いかにも落語家らしくおもしろい見出しだ。¹

談志には名言が多く、いろいろな場面で紹介されることがあるが、こんな話がある。

談志のもとに弟子入りを希望する若者が現れた。自宅を訪ねたその青年を招き入れ、

「今からうまいものを食わしてやる。冷蔵庫を開けてみる。」

と言うなり冷蔵庫の中のものをかたっぱしから鍋^{なべ}に放り込み、カレー作りが始まった。当たり前前の材料だけではない、

① につくものを本当にかたっぱしから放り込んでいく。

「そのチーズケーキも放り込め。」

「チーズケーキですか？それに、このチーズケーキ、賞味期限が切れてますよ。」

「賞味期限だ？そりゃあ（＝それは）てめえ（＝おまえ）の親せきが決めたのか？²親せきでもないやつ²の言うことなんぞ

信用するな。」

煮込まれるうちに形のなくなった賞味期限切れのチーズケーキの入った ② としたカレーが完成する。若者は師匠^{ししょう}になる人の言うことに逆らえるはずもなく、スプーンで一口食べる。

「うまい。」

チーズケーキの入ったカレーがうまいはずがないと思っ³ているあなた。チーズケーキの材料をご存知か？小麦粉、牛乳、

卵、バター、生クリーム、クリームチーズ…。これらの材料が鍋の中でカレーの味に深み³を与えるのだ。「己^{おのれ}に自信のな

いやつが常識⁴にしたがう」、これも談志の言葉だ。

伊集院光（いじゅういんひかる―タレント）が三遊亭圓楽（さんゆうてい えんらく）の弟子だったことはよく知られている。落語家を志した彼がなぜ転身したのか。その人生の転換点に談志がいる。圓楽の付き人として放送局（あるいは演芸場だったかもしれない）に同行した彼は、談志の落語を **③** にする。

「すごい。自分はいくらやっただって、あんなふうになれるわけがない。落語家になるのはあきらめよう。」

テレビの世界で活躍するようになった後、談志に出会った彼は転身のきっかけが目の前の人だったことを当人に伝える。

「談志師匠の落語があまりにすごく、自分には無理だと思つて落語家になるのをあきらめたんです。」

談志は一言、

「てめえ、いい理由を見つげやがったな。」

もし、本当に落語家になりたかつたのなら、どんなに高い山が目の前にそびえ立っていても、それを乗り越えようとするはずだ。本当は落語家になるのがいやになっていたのだ。その心がゆらいでいるときに談志の名人芸に接し、彼を決意させたにすぎない。本当の理由は伊集院自身の心にあつたのに、談志の名人芸に触れたからだ **④** 理由付けをしてきたことに、自分で気づいていなかったのだ。「本当はお前が落語家になりたくなかつただけだろう。おれの落語は **⑤** にすぎない。理由はお前の心の中にある。」これが「てめえ、いい理由を見つげやがったな。」の意味だ。

白状しよう。談志がなぜ名人と言われるのか、私にはわからない。だれもがすばらしいと認める『芝浜（しばま―落語の演目の一つ）』は理屈っぽくて好きになれない。 **⑥**、「賞味期限だ？そりゃあてめえの親せきが決めたのか？親

せきでもないやつと言うことなんぞ信用するな。」と「てめえ、いい理由を見つげやがったな。」は好きだ。

いま世の中は改革ばやりだ。「時代に合わせて変えていかなくては取り残される。今のやり方は時代の流れに合っていない。時代遅れだ。賞味期限が切れている。」と言われたらこのセリフだ。

「賞味期限だ？そりゃあてめえの親せきが決めたのか？親せきでもないやつと言うことなんぞ信用するな。」

他人の言うことを無批判に受け入れるのではなく、自分の頭で考えて、いまの時代に通用するかどうか判断することだ。

「おかあさんが□うるさく言うから勉強する気がしなくなった。もう勉強せん。」に対してはこれだ。

「てめえ、いい理由⁵を見つけやがったな。」

勉強するかしないかを決めるのは他人ではない。

生きていく上での判断も決断も、**⑦**でするしかないのだ。

問一 — 線部1「おもしろい見出し」とありますが、「談志が死んだ」という見出しのどこがおもしろいのですか。簡単に説明しなさい。

問二 — **①**・**③**に入る最も適当なものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、**①**・**③**にはちがう答えが入ります。

ア 目 イ 鼻 ウ 耳 エ 口 オ 手

問三 — 線部2「親せきでもないやつ」とはどのような人のことですか。文中より二字で抜き出しなさい。

問四 — **②**に入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カラリ イ サラリ ウ スラリ エ ソロリ オ トロリ

問五 — 線部3「深み」と言葉の性質がちがうものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 厚み イ 重み ウ 苦しみ エ 新鮮^{しんせん}み オ 楽しみ

問六 — 線部4「常識」とは、カレーについてはどのようなことですか。文中より二十二字で抜き出しなさい。

問七 — 線部ア「談志」・イ「彼」・ウ「目の前の人」・エ「当人」の中で同じ人ではないものを一つ選び、記号で答えなさい。

問八 ④ に入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あじけなく イ いさぎよく ウ はしたなく エ みすぼらしく オ もっともらしく

問九 ⑤ に入る適当な言葉を、ひらがな四字で答えなさい。

問十 ⑥ に入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さて イ そして ウ だから エ でも オ なお

問十一 — 線部5「理由」について、

① 本人が思っている理由は何ですか、文中より十五字で抜き出しなさい。

② 本当の理由を十字から十五字で答えなさい。

問十二 ⑦ に入る適当な言葉を、文中より漢字二字で抜き出しなさい。

問十三 次のア～エについて、本文に書かれていることと合っていれば○、ちがっていれば×をそれぞれ書きなさい。

ア カレーは当たり前の材料だけで作るべきだと筆者は思っている。

イ 立川談志の落語はおもしろく、すばらしいと筆者は思っている。

ウ 伊集院光が落語家への道を進まなかったのは、本人がやりたくなかったからだ。

エ 時代の流れに合っていないと言われたら、すぐに反省し、改めなくてはいけない。

問十四 あなたが高水付属中学校を受験したのはなぜですか。その理由を百字以上百二十字以内で書きなさい。ただし、

句読点も一字として数えます。なお、理由によって得点が変わることはありません。

〔二〕

次の1～5のカタカナを漢字に直しなさい。またその漢字を音読みにした二字の熟語を一つ作り、読みも書きなさい。

1 暗いので、道にマヨった。 2 校則にシタガうべきだ。

3 災害にソナえる。 4 人口がフえる。

5 真実をタシかめる。

〔三〕

（こと）

次の1～5の□に漢字を入れると二字熟語ができます。□に入る漢字を答えなさい。（ただし、熟語は↓の方向に読む

1 感↓□↓勢

表 → ← 苦

2 調↓□↓約

分 ← ← 季

3 物↓□↓格

投 → → 産

4 証↑□↓養

留 ← → 健

5 十↓□↓解

身 ↔ → 析

〔四〕

次の1～5の□には、対になる漢字が一字ずつ入ります。下の意味を参考にして□に入る漢字を答えなさい。

- 1 一□一□ 進んだりあともどりしたりすること。
- 2 起□回□ 絶望的な状態から立ち直らせること。
- 3 □往□往 □往□往 うろたえて、あっちへ行ったりこっちへ行ったりすること。
- 4 半□半□ 本当かどうか、うたがうこと。
- 5 □同□異 全体としてはほとんど同じで、あまり違いのないこと。

〔五〕

次の1～5の文について敬語の使い方が正しいものには「○」、間違っているものには「×」をつけなさい。また「×」の場合は、間違っていると思う部分を抜き出し、正しい敬語の表現に書き直しなさい。

- 1 校長先生が申し上げなされた。
- 2 ご用件をうけたまわりました。
- 3 明日、母が学校に来られます。
- 4 父がよろしくと申していました。
- 5 熱いうちにいただいでください。

〔六〕

次の俳句について、後の問いに答えなさい。

「閑^{しずか}さや 岩^いにしみいる 蟬^{せみ}の声」

1 この俳句は、江戸時代にかつやくした人の作品で、『奥の細道』の作者でもあります。
作者の名前と季語を答えなさい。

2 次の中から、この作者が作った俳句を選び、記号で答えなさい。

ア 我^{われ}と来て 遊^{あそ}べや親^{おや}の ない雀^{すずめ}

イ 古池^{ふるいけ}や 蛙^か飛びこむ 水の音

ウ 柿^{かき}くへば 鐘^{かね}が鳴^なるなり 法隆寺^{ほうりゅうじ}

エ めでたさも ち^ちう位^いなり おらが春

オ 春の海^{はるのうみ} 終日^{ひねもす} のたりのたりかな

解答用紙(国語)

出身校
小学校
氏名
受験番号

得点
※

(一) 問一

問二 ①

③

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一 ② ①

問十二

問十三 ア

イ

ウ

エ

問十四

(二)

1	熟語	よみ	った
2	熟語	よみ	う
3	熟語	よみ	える
4	熟語	よみ	える
5	熟語	よみ	かめる

※

(三)

1

2

3

4

5

※

(四)

1

2

3

4

5

(五)

1

2

3

4

5

5

4

3

2

1

↓

↓

↓

↓

↓

(六)

1 作者

季語

2

※

(※印のところは記入しない)